

## 学校生活についてのアンケート調査の結果について

### 1 調査の概要

#### (1) 調査目的

学校生活についてのアンケート調査は、各学校においては、児童生徒の実態を把握し、いじめの未然防止や早期発見・早期解決につなげることを、教育委員会においては、藤沢市全体の傾向を把握して今後の施策に反映することを目的として、全市立小中学校児童生徒を対象に実施しています。

#### (2) 実施時期 平成27年7月～10月

#### (3) 調査対象 全市立小・中学校児童生徒

小学生

(単位：人)

1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	回答率
3,818	3,826	3,732	3,584	3,864	3,919	22,745	98.3%

中学生

(単位：人)

1年	2年	3年	計	回答率
3,412	3,382	3,439	10,233	97.0%

※回答率は平成27年9月1日現在の児童生徒在籍数に対する回答数の割合です。

※欠席者等がいるため、回答率は100%になっていません。

#### (4) 調査・回収方法 無記名で回答し、記入後その場で回収

#### (5) 調査内容 「学校生活についてのアンケート」

設問1～設問4 「学校生活の中で嫌な思いをしている児童生徒の把握」

設問5 「自己の行動の見直し」

設問6～設問8 「周囲の児童生徒の意識」

### 2 調査結果の分析の観点

(1) 過去3年分での推移がつかめるよう、その学年の3年間分の数値を並べてグラフ化

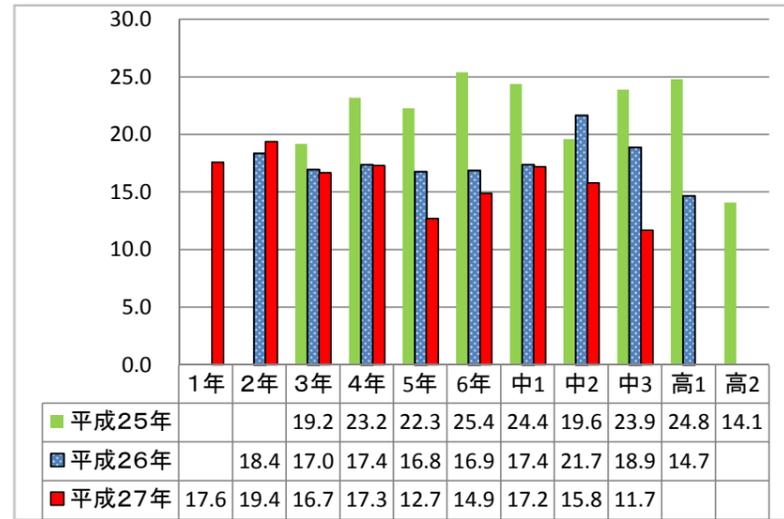
(2) 近年問題視される、パソコン、携帯電話・スマートフォン等に関わる割合の変化

(3) 嫌な思いをしている児童生徒と嫌な思いをさせた児童生徒、嫌な思いをしている児童生徒を見たり聞いたりした児童生徒の割合の比較

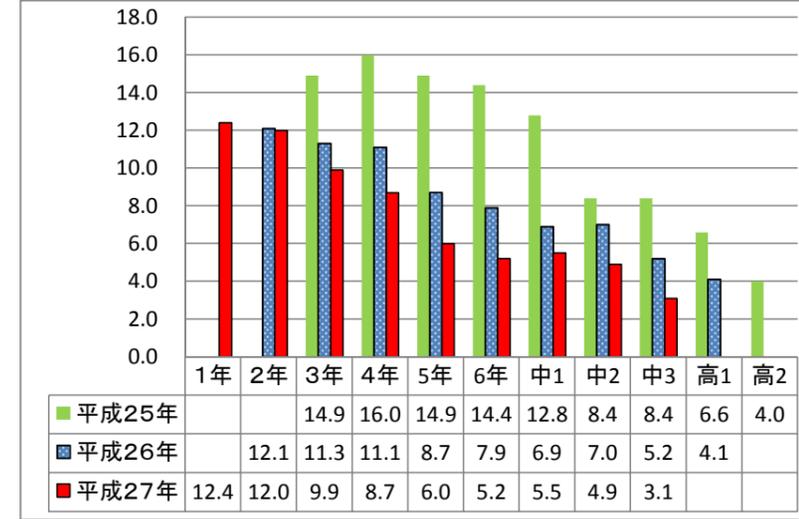
### 3 調査結果の分析と考察 (単位は全て%)

設問1 あなたは今年の4月から今までの間に、くり返し次のようなことをされたことがありますか。(学校生活の中で嫌な思いをしている児童生徒)

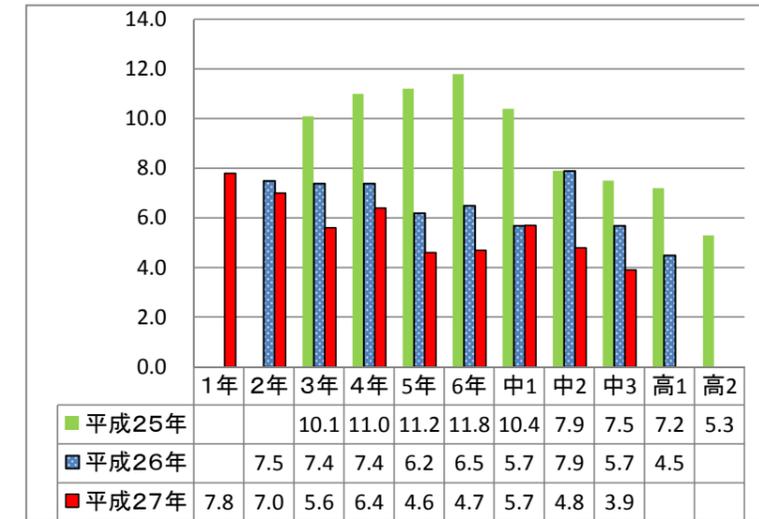
(1) ひやかされたり、からかわれたり、嫌がることを言われた



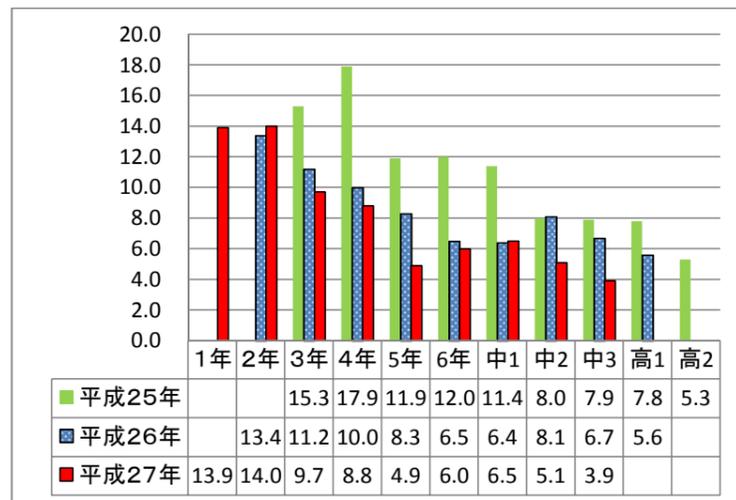
(2) 仲間はずれにされたり、無視されたりした



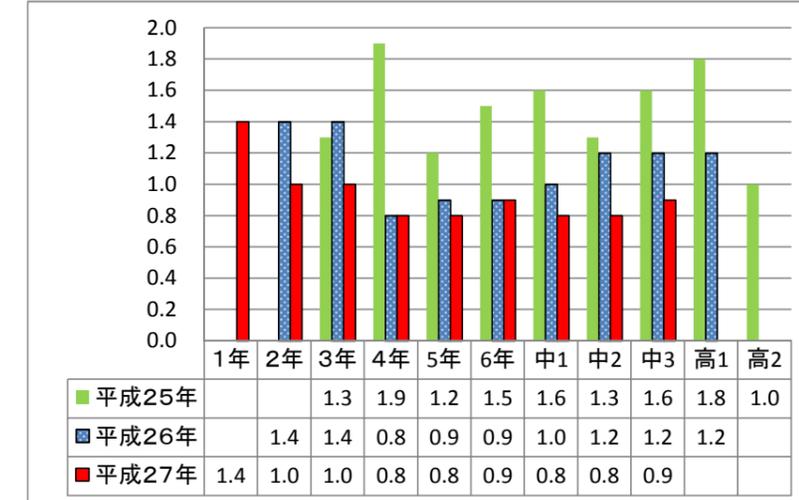
(3) 持ち物を取られたりかくされたりした



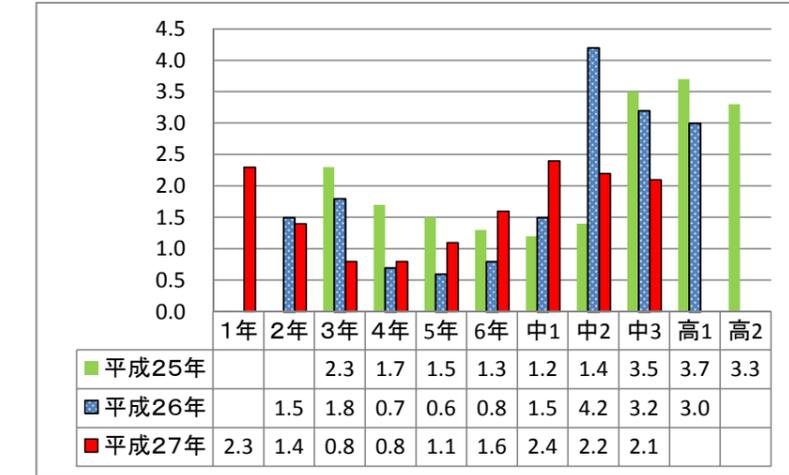
(4) なぐられたり、けられたりした



(5) お金を出させられたり、おごらされたりした



(6) 悪口の書いてある手紙を教室で回された(小学校低学年) パソコンや携帯電話・スマートフォンで悪口を言われたり、書き込まれたりした



(7) その他

(主なもの：平成27年度)

【小学校】  
・悪口、陰口を言われる・LINEに悪口を書き込まれる・物をとられる、壊される・ぶたれる、蹴られる・ちょっかい出される・からかわれる・バイ菌扱いされる・校門で待ち伏せされる・つばをかけられる・無視された

【中学校】  
・迷惑メール・LINEのコメントのところに人の悪口を書く・いやなあだ名をつけられる・部活で嫌がらせを受ける・大人数で1人をいじめる・親友と呼べる人がいない・勉強のことで、友達に馬鹿にされる・仲のよい友達の悪口を言われた

(主なもの：平成26年度)

【小学校】  
・差別された・ひそひそ話・勝手にランドセルやお道具箱をあさられた・紙で悪口を書かれた・にらまれた・悪口を言われた・噂を流された・叩かれた・無視された・仲間はずれにされた・「菌」扱いされた・持ち物を隠された

【中学校】  
・悪口を言われた・噂を流された・変なあだ名で呼ばれる・仲間はずれにされる・SNS上に勝手に写真を載せられたり悪口を書かれたりした

(考察)

学校生活アンケートの結果について、平成25年度から平成27年度までの3年間の変容を並べて比較できるようにグラフ化しました。全体的な傾向として、この3年間でほとんどの学年が減少傾向となっております。特に中学生は全ての項目において全学年で数値が減少傾向となっております。小学生では高学年は減少傾向ですが、低学年において増加傾向が見られ、特に2年生で顕著に表れています。

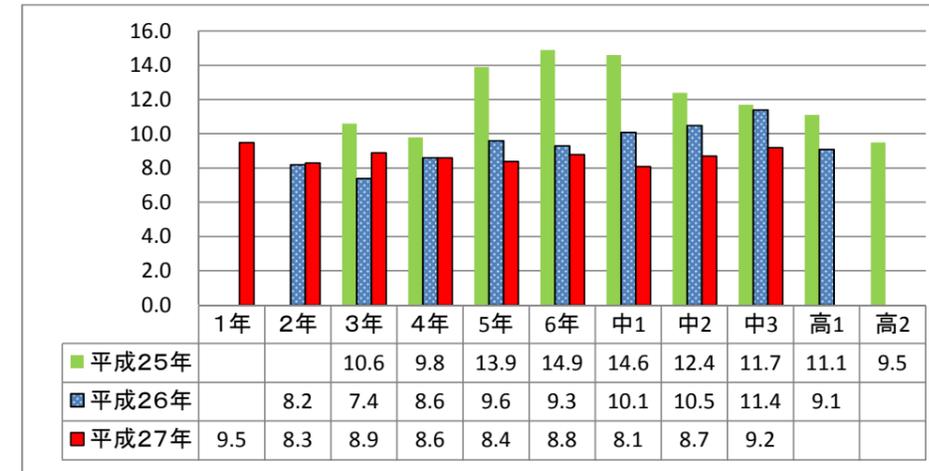
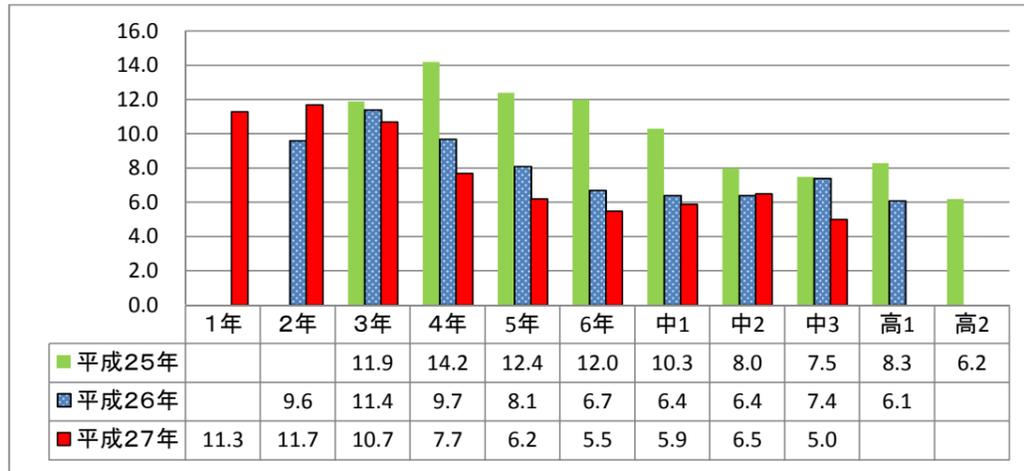
全体的に減少傾向となった一点目の理由として、教職員が児童生徒に寄り添いきめ細かな対応をしていること、二点目として、学校が学校生活アンケートにより把握した実態を指導に生かしていること、また、各学校で策定している「いじめ防止基本方針」に則り取り組んでいることにより成果をあげていること、三点目として児童生徒が自覚を持って自らいじめ防止を行う自治活動として、「あいさつ運動」「目安箱の設置」「いじめ防止プログラム」によるスクールバディの養成などを積極的に取り入れているということがあげられます。また、毎年開催している「STOPいじめ！中学生の集いinふじさわ」では、いじめ防止について各中学校生徒会の取り組みを報告しあい、各学校の取り組みの一層の充実を図っています。

課題としては、小学校2年生において(1)、(4)が1年次及び昨年度の2年生の数値に比べ増加していることがあげられます。理由として、小学校2年生は学校生活にも慣れ自分の要求に従って行動する傾向にあり、その結果、周囲の児童とトラブルにつながっていることが考えられます。

(6)のパソコンや携帯電話・スマートフォンについての回答結果は、中学生において数値は減少しているものの、小学1年生と中学1年生での数値が高く、課題がみられます。各学校においては、情報モラル教育に力を入れているので、児童生徒のネットトラブルについての理解は進んでいるものの、中学校入学を機に、携帯電話等の所持率が急激に増加することもあり、今後も携帯電話等を持ち始める前の段階で、小学校高学年の保護者を対象に入れた情報モラル教育の推進などの対策が必要です。

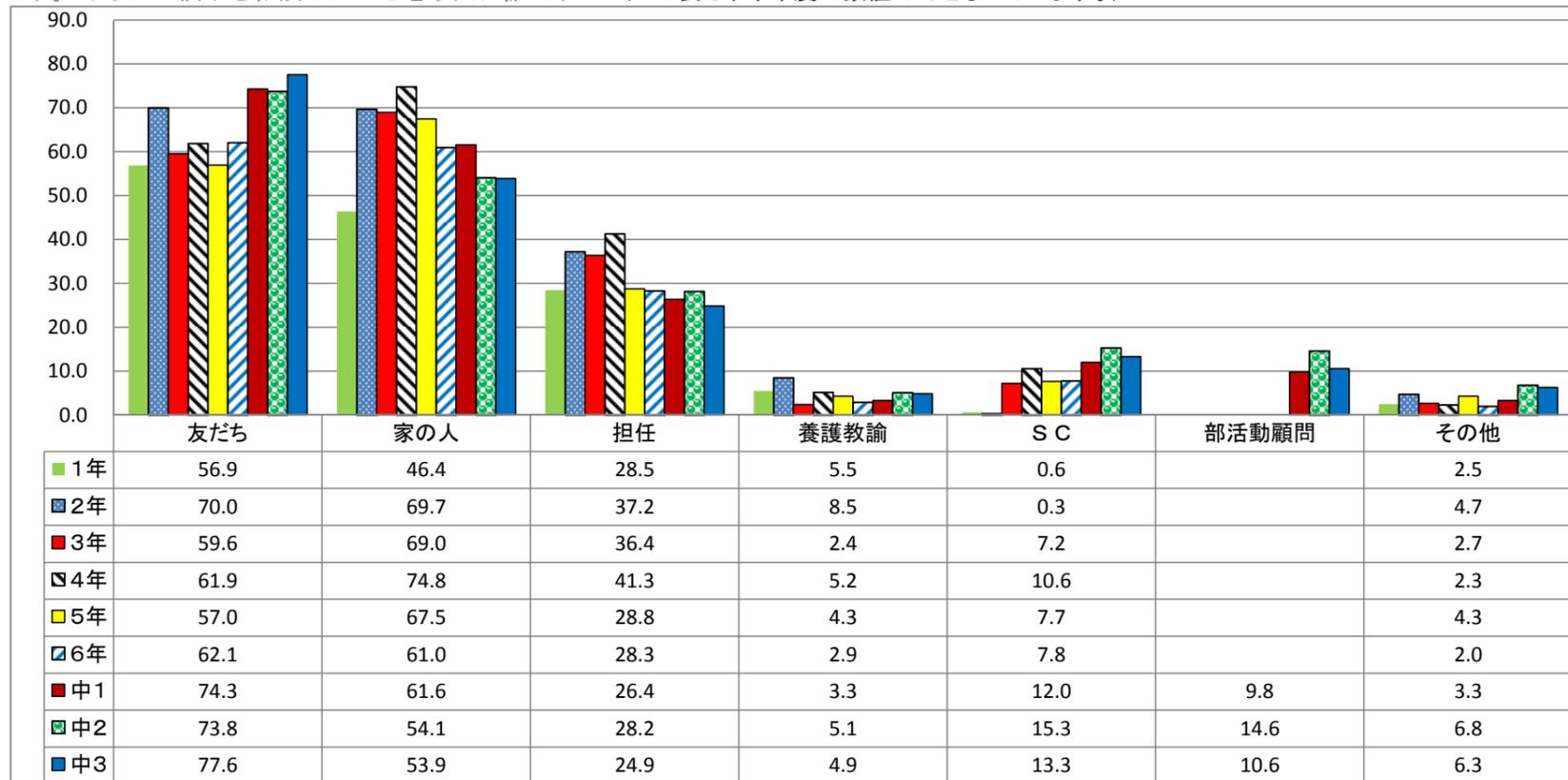
設問2 あなたは、1の(1)～(7)のようなことから、学校に来るのがつらくなることがありますか？

設問3 あなたは、友達のことや、心配なこと、相談したいことがありますか？



設問4 3の質問で「はい」と答えた人への質問です。あなたが悩みを相談したいと思う人は誰ですか？いくつかでも○をつけてください。

3で「はい」と答えた人への質問です。あなたが悩みを相談したいと思う人は誰ですか？(この表は、今年度の数値のみとなっています。)



その他

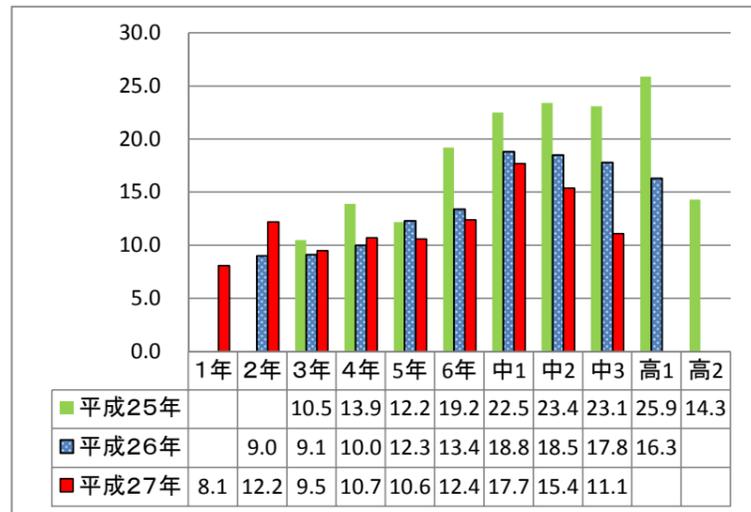
(小学校)  
 ・祖父母・兄妹・いとこ・叔父、叔母・友達のお母さん・誰も頼れない・ことばの教室の先生・すまいるの先生・かかりつけの医師・塾の先生・相談しない・自分で考える・元担任・専科の先生・校長先生・いじめた人の両親・電話相談(いじめ)  
 【中学校】  
 ・担任・理科の先生・生徒指導教諭・担任以外の先生・小学校の先生・塾の先生・家庭教師・医師・親・姉・祖父母・大人・カウンセラー・恋人・ネットの友人・誰もいない・相談したいと思わない・信用できる人がいない・自分で解決している

(考察)

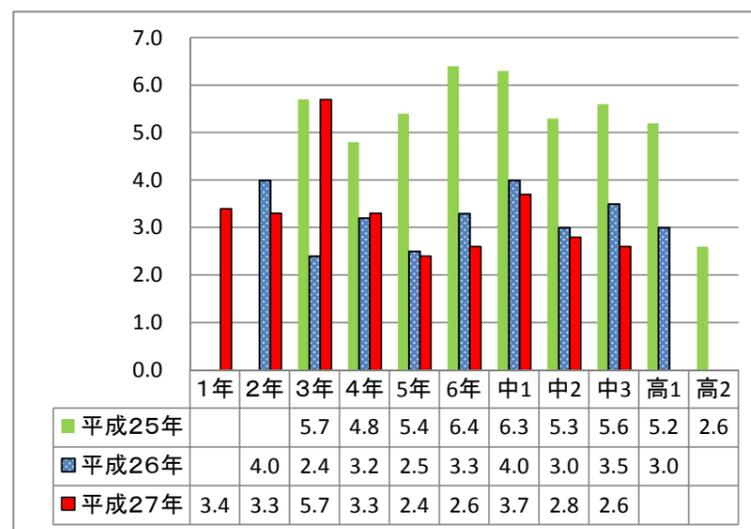
設問2は小学校1年生から中学校3年生まで減少傾向に、設問3はほぼ横ばいとなっています。設問4より、児童生徒が悩み事のかかえたときに相談したい相手の傾向は昨年とほぼ変わらず、1番に友達、次に家族、そして学級担任という順になっています。中学校では、スクールカウンセラーに増加傾向が見られます。その他の意見では、小学校では、家族などの身近な人に相談する傾向が見られ、中学校になると家族よりも友だちに相談をする傾向が見られます。また、ネット上の友だちという回答も見られ、見ず知らずの相手に相談するという危うさも見られます。小学校・中学校ともに、相談できる人がいない、相談しないと回答している児童生徒が心配であり、気軽に相談できる人間関係の構築が必要です。そのためにも、担任は児童生徒の日頃の様子をよく観察し声かけをしたり、保護者と連携してスクールカウンセラーに繋げていくなどの支援が大切です。

設問5 あなたは今年の4月から今までの間に、周りの人に次のようなことをしたことがありますか。(学校生活の中で周りの人に嫌な行為をしたことがある児童生徒)

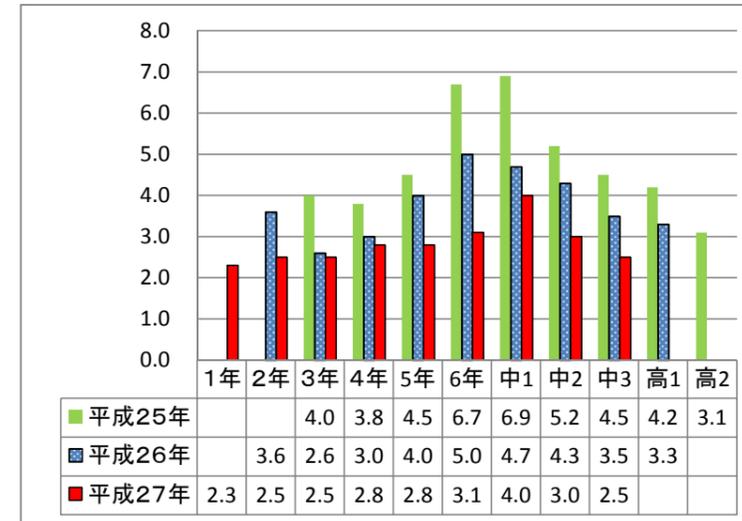
(1) ひやかしたり、からかったり、嫌がることを言った



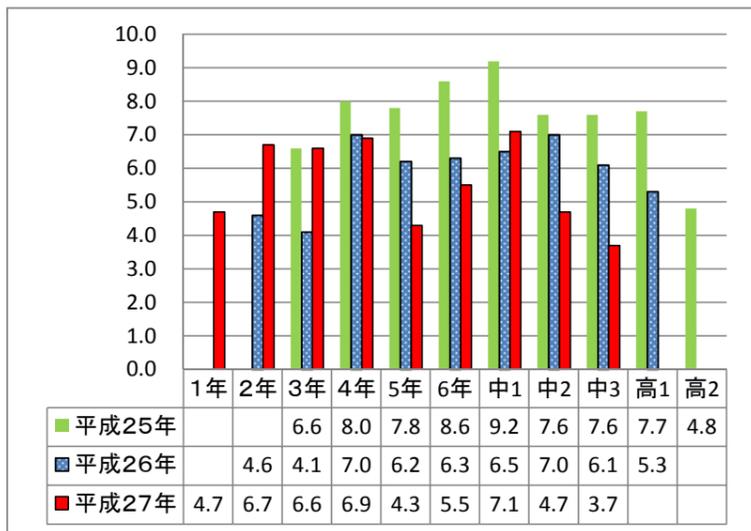
(2) 仲間はずれにしたり、無視したりした



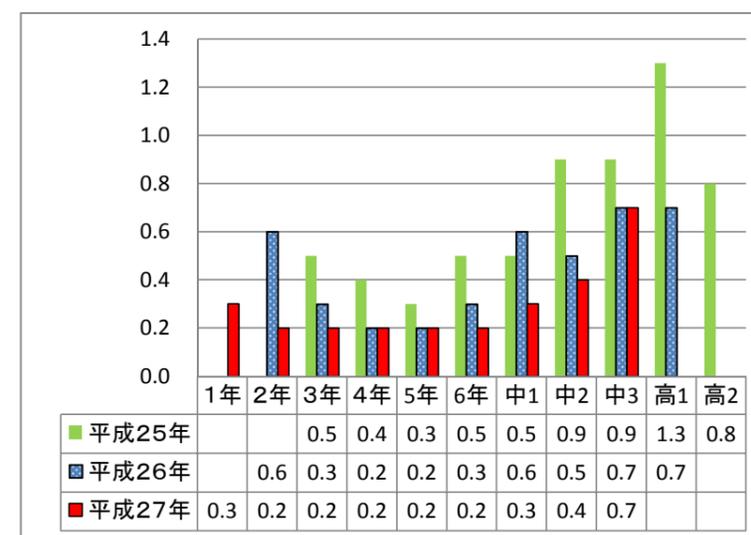
(3) 持ち物を取ったり、かくしたりした



(4) なぐったり、けったりした

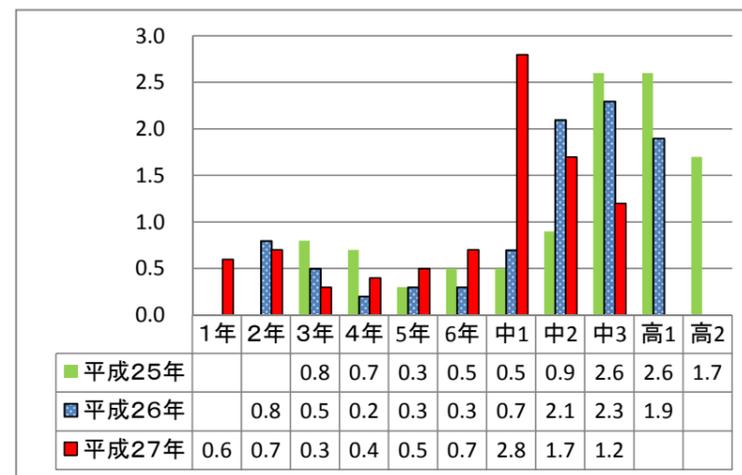


(5) お金を出させたり、おごらせたりした



(6) 人の悪口を書いた手紙を教室で回した (小学校低学年)

パソコンや携帯電話・スマートフォンで悪口を言ったり、書き込んだりした



(7) その他

(主な意見：平成27年度)

【小学校】

・特定の子を避けた・テストの点数を見る・無視した・しつこくした・嘘をついた・ビンタをした・変な名前前で呼ぶ

【中学校】

・人が失敗したときに、笑う・黒板消しで叩いた・悪口を言った・ちょっかいをだした・悪口に同調した・物を取った

(主な意見：平成26年度)

【小学校】

・悪口を言った・暴力を振るった・無視をした・仲間はずれにした・にらんだ・こそこそ話をした

【中学校】

・陰口を言ってしまった・無視をした・プロレス技をかけた

(考察)

設問5では、自分がしたことを調査しています。

多くの設問で、3年間で減少している傾向が見られます。中学生はほぼ全体的に減少、小学生は5、6年生で大きく減少しています。しかし、(1)、(4)において、現在の小学校2年生だけが1年次及び昨年度の2年生の数値から増加しています。また、(2)において現在の小学校3年生も2年次及び昨年度の3年生の数値から増加しています。このように、設問1と同様、小学校低学年において課題が見られます。教員は、この時期の児童の特性を理解していくとともに、集団を意識した学級経営を行っていくことが重要です。

パソコンや携帯電話・スマートフォンについての質問は、設問1と同じく小学校高学年から中学校にかけて増加傾向が見られます。特に中学校1年生が著しく増加しています。

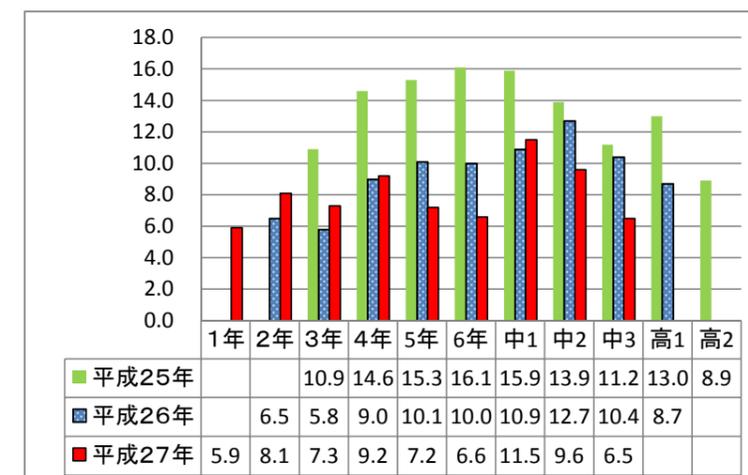
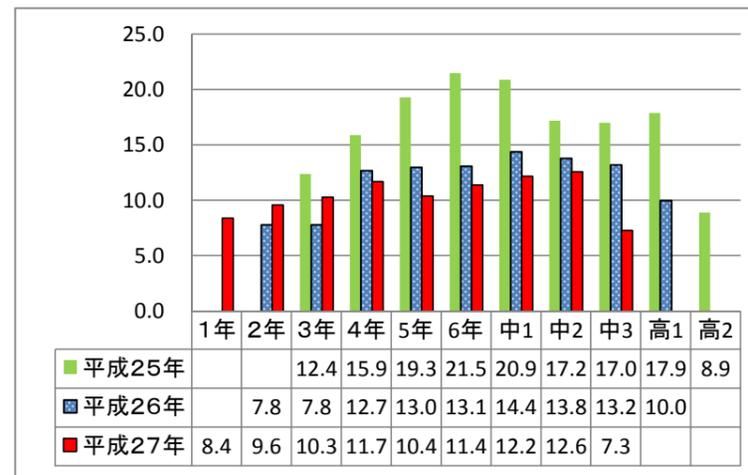
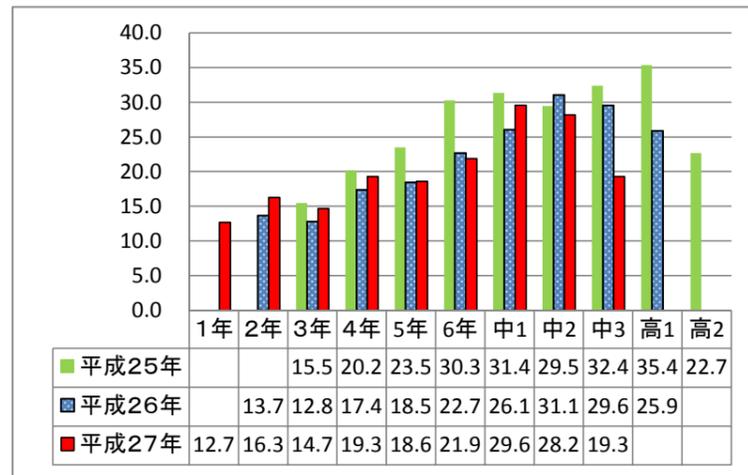
全体的な傾向として、自分がされたことを質問している設問1に比べ、数値が低くなっています。自分はいじめているつもりはなくても、相手にとっては嫌だと感じる場合があり、感じ方がそれぞれ違うことを認識させる必要があります。日頃から相手の気持ちを考えて、お互いに尊重しあって生活していくことが大切です。

設問6 あなたは今年の4月から今までの間に、同じ人がくり返し、次のようなことをされている場面を見たり、聞いたりしたことがありますか。(周囲の児童生徒が嫌がらせ行為を行っている場面を見たり聞いたりしている児童生徒)

(1) ひやかされたり、からかわれたり、嫌がることを言われていた

(2) 仲間はずれにされたり、無視されたりしていた

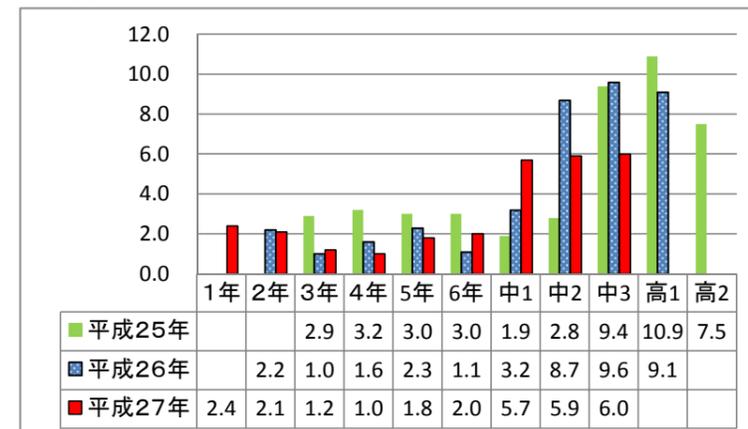
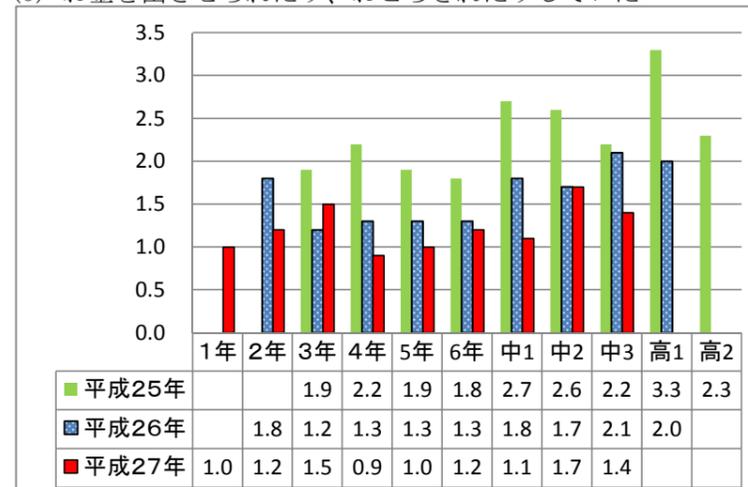
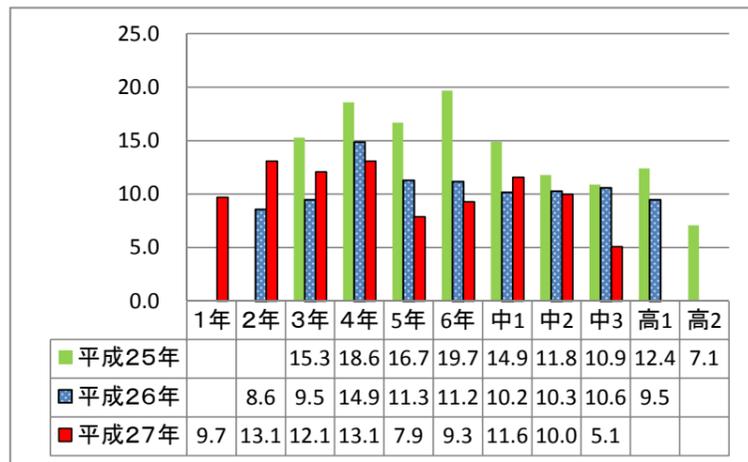
(3) 持ち物を取られたり、かくされたりしていた



(4) なぐられたり、けられたりしていた

(5) お金を出させられたり、おごらせられたりしていた

(6) 人の悪口を書いた手紙を教室で回した(小学校低学年) パソコンや携帯電話・スマートフォンで悪口を書き込まれていた



(7) その他

(主な意見：平成27年度)

【小学校】

・転ばされていた・変なあだ名をつけられていた・陰口・告げ口・いろいろな人の悪口を言う・わざとぶつかる・上履き隠し・LINEに悪口・「菌」扱い・机に落書き・避けられていた・虫が苦手な子に近づけていた・迷惑メールが送られてきた

【中学校】

・悪口を言われていた・変なあだ名で呼ばれる・冷たい態度、視線・上下関係で人に見下されていた・荷物を持たされていた・肩を殴られた・じゃんけんで負けたら、罰ゲームをさせられた

(主な意見：平成26年度)

【小学校】

・「菌」扱いされていた・暴力を振るわれていた・変なあだ名をつけられていた・SNS上に悪口を書かれていた

【中学校】

・変なあだ名をつけられていた・持ち物を壊されていた・SNS上に悪口を書かれていた

(考察)

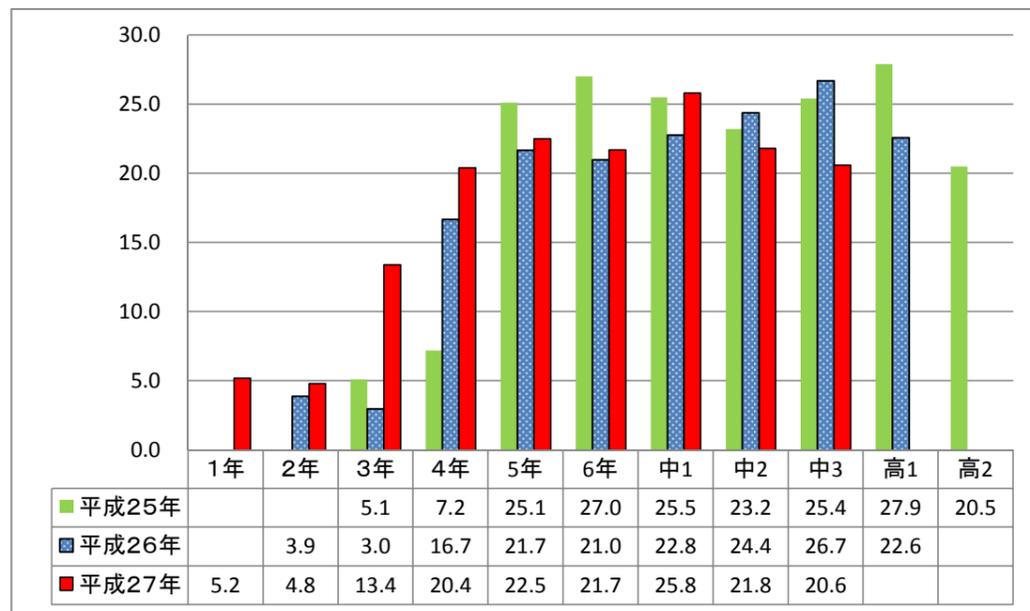
全体的な傾向としては、これまでの設問と同じく、3年間での減少傾向が見られます。ここでも現在の小学校2年生は(1)、(2)、(3)、(4)において1年次及び昨年度の2年生の数値から大きく増加しています。

パソコンや、携帯電話・スマートフォンについての回答で、昨年と比べ低くなっているものの、やはり中学生の数値が大きくなっています。

設問1の「自分がされたこと」設問5の「自分がしたこと」に比べ、「されているのを見たり聞いたりしたこと」という設問のため、数値が大きくなっています。各学校の取り組みなどにより、いじめについての児童生徒の感度が上がったこと、一つの事案に対して、複数の児童生徒からの回答があったと思われることなどから、このような結果になったと考えられます。

中学生の携帯電話等の質問では、昨年度に比べ数値は減少しましたが、依然として、今後の課題となっています。ネット上の閉ざされた世界での出来事は、学校や保護者が感知しづらいため、こういった情報を見たり聞いたりした児童生徒からの訴えに頼るしか発見の手立てが無いのが現状です。児童生徒への心の教育、情報モラル教育を一層推進する必要があります。

設問7 あなたの周りには、6の(1)~(7)のようなことから、学校に来るのがつらくなっている人がいると思いますか？



設問8 6の(1)~(7)のような場面を見たり、聞いたりしたら、どうしますか？

(主な意見：平成27年度)

【小学校】

・すぐ先生に言う・助けてあげる・注意する・話を聴く・どうにかして止める・家の人に言う・S Cに相談する

・やられている人の味方につく・助けたいけど、自分がいじめられたら嫌だ・関わらない

・自分達で解決できることは解決する・見てみぬフリをする・いじめる仲間に入らない・相談所に電話する

【中学校】

・先生に言う・止める・相談に乗る・何もできない・注意する・関わらない・見てみぬフリをする・家族に相談する

・いじめている理由を聞く・助ける努力をする・どうにかしたいが自分がターゲットになるのが怖い

・アンケートを書く・何人かで止める・逃げない・S Cに相談する・助けたいけど行動に移せないかも

・仲が良ければ止めるが、仲良くなければ無視する・解決方法を一緒に考える・生徒会に相談する

(主な意見：平成26年度)

【小学校】

・すぐ先生に言う・助ける・注意する・家の人に言う・関わらない

・先生やS Cに相談する・みんなと一緒に止める

・自分がいじめられたら嫌だから関わらない・自分たちで解決できることは解決する

【中学校】

・先生に言う・いじめる側に付かない・助ける努力をする・家族に相談する・アンケートを書く

・先生やS Cに相談する・いじめかじゃれあいかわからない・いじめる側につかない・関わらない

・見てみぬフリをする・どうにかしたいが自分がターゲットになるのが怖い・助ける勇気が出ない

・見てみぬフリはしない・スクールバディに相談する

## 4 これまでの成果と新たな課題

### (1) これまでの成果

- ア この3年間で「学校生活の中で嫌な思いをしている児童生徒」「学校生活の中で周りの人に嫌な行為をしたことがある児童生徒」「周囲の児童生徒が嫌がらせ行為を行っている場面を見たり聞いたりしている児童生徒」については、減少傾向が見られています。
- イ 教職員が日頃からきめ細かく児童生徒を観ていることや学校生活アンケート等の実施により、いじめの早期発見・早期対応につながっています。
- ウ 児童生徒のいじめに対する自覚が高まり、「あいさつ運動」「目安箱の設置」「アンケート調査」「いじめ防止プログラム」の実施など、各学校において児童生徒によるいじめ防止に向けた自治活動が積極的に推進されています。
- エ 「藤沢市子どもをいじめから守る条例」の施行や各学校の「いじめ防止対策基本方針」に基づいた取り組み、いじめ防止対策担当スクールカウンセラーによる研修会の開催により、教職員のいじめに対する意識や対応力が高まっています。

### (2) 新たな課題

- ア 小学校低学年、特に小学2年生においては、嫌な思いをしていたり嫌な行為をしたり嫌がらせ行為を行っている場面を見たり聞いたりした児童が増加しています。対象学年に対する適切な対策を図る必要があります。
- イ 小学校高学年から中学生にかけてのパソコンや携帯電話・スマートフォンによるトラブルは減少しているものの、情報機器関連のトラブルは問題性が見えにくく、水面下での進行が懸念されることから、早期発見に向けての対策を図る必要があります。

## 5 新たな課題に対する今後の取り組み

小学校低学年の課題については、学校は、この年齢の特性を理解し、一層丁寧な指導と支援が必要になります。まずは、学校内において情報を共有し、チームで支援指導していくことが重要になります。その際、スクールカウンセラーや特別支援学校の地域支援を活用し専門的な助言を受けながら、さまざまな課題を抱える子どもたち一人ひとりのニーズに応じた対応を行っていきます。

教育委員会は、いじめ防止対策担当スクールカウンセラーによる研修会を充実させていくとともに、子どもたち一人ひとりを大切にする「藤沢の支援教育」の考え方をひき続き周知してまいります。小学校においては、現在12校に配置している児童支援担当教諭の全校配置を目指し、児童支援担当教諭と生徒指導担当教諭を窓口とした、小中学校の連携に力を入れ、9年間の連続した児童生徒支援・指導を目指します。

また、情報機器を介して起こるトラブルについては、引き続き学校において、児童生徒・保護者に対する情報モラル教育を推進するとともに、学校に対して対処法等について最新の情報を提供し、トラブルが発生した際には学校と連携して早期対応を図ります。